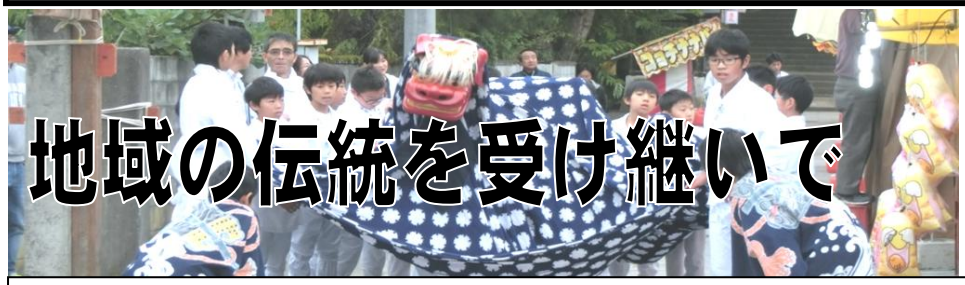
鮎貝小学校だより



第12号　平成29年10月18日（水）

第Ⅲ節 わかる・できる喜び
合　言　葉
『しっかり勉強　進んで発表！』
日々の努力目標
『学習と読書の習慣づくり』

第１４６回 創立記念式校長式辞　【概略】　校長　向　田　　聡

本校は明治５年今から１４５年前に大町のお寺をお借りして開校しました。それから１１年ほど経って、鮎貝の学校に通う子ども達はどんどん増え、未来を担う子ども達のためにと、明治１６年に新しく学校が建てられました。白鷹高等専修学校のある所に洋風の３階建てで、６年生が社会の授業で習う文明開化、明治の象徴と言われるほど素晴らしいものでした。大正時代となり、大正９年、鮎貝村学区統一で今の学区と同じになり、深山・栃窪・黒鴨・高岡の４つの学校は分校になりました。３階建ての校舎は立派なものでしたが、最初１６９名しかいなかった子ども達が、大正時代の終わりには９０６人もの大勢になりました。そこで、昭和２年に大勢の子どもたちが学べる新しい校舎を建ててもらい、その校舎に今の中学２年生ぐらいまでの人が通っていました。ところが、戦争で日本は負け、二度と戦争をしない新しい日本に生まれ変わりました。学校も小学校６年、中学校３年となり、大町の校舎は中学校とし、また新しく小学校を建てることになったのです。アメリカのブルドーザーを手配して、大がかりな工事が行われ、子ども達も深山の河原から石を拾って何度も運んだり、グラウンドの周りに松の木を植えたり、冬のストーブ用の薪を運んだりとたくさん手伝いました。その校舎もとても立派な校舎で長く子ども達、保護者・地域の皆様に愛されました。また、川で命を落とすことのないようにという地域の皆様の思いから、プールも出来上がりました。当時プールのある学校なんて、小学校、中学校、高等学校を探してもめったにありませんでした。昭和４７年には創立１００周年、記念事業としてスキー場の整備とディスタンスコースの整備がなされました。また、馬も飼っていました。名前は『はやぶさ太郎』。昭和５３年には教育の森も整備され、昭和５５年の全日本学校環境コンクールで準特選を受賞。本校は、全国準優勝の素晴らしい環境に恵まれた学校なのです。そして、鉄筋コンクリート校舎の時代を迎え、また未来の子ども達のためにと、地域の皆様が一致団結して町への要望を出し、１１年間の年月をかけて、今の校舎・体育館・プールが出来上がったのです。このように、「鮎貝の子ども達のために」という地域の皆様の熱い気持ちのおかげで今の鮎貝小学校があるのです。

今年度注目するのは、子獅子舞と神楽舞です。昭和４４年度の２月、６年生の担任をしておられた梅津一郎先生が学芸会で２クラス合同で太鼓とリコーダーで祭りばやしをしようと発案、練習を進めるうちに「獅子頭の踊らねえ祭りばやしなてないべ。」と、獅子舞も披露することになったそうです。本番まで一生懸命に練習をして大成功におさめ、校長先生は感動し、「すごくいがった、お前、この獅子舞毎年出しぇ。」そして「鮎貝小学校を卒業する子ども達には、全員、舞か太鼓か笛のどれか必ず身につけさせて卒業させること。」と言われたそうです。笛も横笛で、舞も自分たちでできるように教ぇんなねと指導者も集まって子獅子連となり、お獅子様をはじめ様々な道具も必要だと後援会も発足したのです。それ以来、今年で４９年目。これまでの歴史を振り返ると、平成元年には東京三鷹市で行われた『ホークスサミット』に、平成１５年には『国民文化祭』に出演し、東日本大震災後は、気仙沼鮎貝様を何度か訪問し、見事なお庭の前や近くの松岩小学校で復興祈願の気持ちを込めて獅子舞を披露したことも貴重な足跡です。

一方、神楽舞は昭和５６年に創始され、昨年まで浦安の舞として、厳粛な神事の中で、しっかりと役割を果たしてきました。夏の暑い中での練習を繰り返し、例大祭での本殿での舞、宵宮祭では御神輿渡御行列に、奉納祭では特設舞台での舞、そして元旦の歳旦祭などなど、巫女さんとしての役割を果たし、美しく彩り続けてきました。本校は、男子と女子の割合が１０対６ととても女の子が少なく、今年はもしかしたら、１０人そろわないのかと心配しましたが、３年生も入ってくれて１１名にもなり、ほっとしています。神楽舞は３７年間、本校の子ども達だけでずっと守り続けてきた役割なのです。

今年も低学年のみんなは田楽持ちをまた高学年のみんなの中には高張り持ちを引き受けて頑張っていました。また、子獅子舞も３年ぶりに全行程を回ることができ、地域の皆様の温かな出迎えと励まし、そしてねぎらいの言葉までいただきました。どうぞ、鮎貝八幡宮に守られたこの鮎貝を誇りに思い、七五三獅子舞や神楽舞という伝統文化の素晴らしさを改めて強く胸に刻み、これからも大切にしていってほしいと思います。ご指導くださっている方々はもう何十年、その間のご苦労を思うと計り知れないものがあります。どうぞ、子獅子舞や神楽舞にかかわっておられる指導者の方々への尊敬と感謝の気持ちを忘れずに、また励ましてくださるお家の方々はじめご支援くださる地域の皆様への感謝の気持ちも忘れずに、これからも一生懸命に受け継ぎ続けてください。皆さんはこの鮎貝に生まれて幸せです。もっともっとこの鮎貝を大好きになって、鮎貝に育つことを誇りに思い、今日を機に、勉強に運動にそして伝統文化の継承に、自ら一生懸命に努力していくよう心から願っています。

3年ぶりの全行程制覇！　地域の皆様に感謝！

子獅子舞行列への温かなお出迎えに感動！

ご神事をありがたく受けてくださる地域の皆様

１０月１５日（日）、子獅子舞行列は曇り空の中スタートしました。八幡宮でのお清めの際も主催関係者の方々をはじめ多くの皆様にお越しいただき、お見送りいただきました。昨年は荒天のため中止。一昨年は、雨が降り始めて途中駅前にて中止となっていたので、３年ぶりのリベンジに燃えておりました。今年度は雨でも工夫して舞うと決めていたので、それが保険となったか当日は曇り続き、雨がちらほら落ちても悪化はせず、なんとか最後まで舞い続けることができました。肌寒い中、町内の多くで地域の皆様にお出迎えいただきました。「ありがとう、ご苦労様！」「あら、大したもんだねえ～！上手！」と温かな声をかけていただき、ご神事を楽しみにしてくださり、親獅子同様に扱ってくださる方々ばかりでした。地域の皆様の心からのご支援に深く感謝を申し上げます。

大町側の南口で大勢の皆様に見守られ、笛も太鼓も舞いも張り切って。

駅前のあけぼのさんで途中休憩です。ねぎらいの言葉までいただいて。

ついに完結！学校に到着して無事にお獅子様がおさめられました。

鮎貝八幡宮祭礼の役割を果たして

巫女の舞「浦安の舞」は37年が経ちましたが、鮎貝小の女の子だけで守り続けてきた役割です。今年は11名。例大祭でも奉納祭でも上手に舞を披露しました。今後も神楽舞として継続し、3年生以上の人を募集していきます。高学年からの1年間だけでもちゃんと覚えられるので、どうぞ申し込んでください。

今年度の11名＜例大祭にて＞

例大祭では巫女さん達が、「浦安の舞」を奉納し、宵宮祭ではお神輿渡御に巫女さん達、そして１年生から４年生までで田楽持ち、５・６年生で高張り持ちとたくさんの役割を果たしていました。地域で活躍する場面をもらって生き生きしていました。

かわいい田楽持ち

大人と一緒の高張り